

16 下相田緑地環境保全地域



1 地域指定

- (1) 指定地域 愛宕神社周辺一帯（北茨城市）
- (2) 指 定 昭和57年3月25日（茨城県告示第437号）

2 保全計画の概要

(1) 指定理由

本地域は、スダジイ、アカガシ等の常緑樹林で、下相田集落内におけるまとまった森林である。林内には、主に関東地方以西に分布するシキミ、コアジサイ、コウヤボウキ（キク科）が生育しているほか、スダジイ、アカガシ等の実生、稚樹が、高木層、低木層、草本層等の各階層にわたって数多く見られる。

これらの現象は、常緑樹が自然に更新されることを示すもので、森林の極相状態に近い群落構成を考察するうえで、学術的にも貴重価値を有し、植生上暖帯林としての特徴も持っており、県北地方において希少性がある。

また、この常緑樹林のもとに、南方系の大型チョウであるモンキアゲハ、オスジアゲハ等が生息している。

これらは、県北地方において希少性を有する種で、他のチョウやセミ類とともに豊富に見られるところから、この良好な自然環境を保全する必要がある。

このため、本地域は茨城県自然環境保全条例第10条第1項第1号に規定する「樹林地が集落地周辺と一体となって、良好な自然環境を形成している区域」に該当する。

(2) 自然環境の概要

ア 植 生

まとまった森林の山頂部分は常緑樹林となっており、スダジイ、アカガシを優占種として、スギ、モミが混生している。

林内には、ヒサカキ、アセビ、シキミ、コアジサイが生育し、草本層にカシワバハグマ、ティカカズラ、ヤブコウジ、フジ、コウヤボウキ、ベニシダ、ヤブランがあり、かつ、スダジイ、アカガシの実生、稚樹が低木層、草本層等の各階層に多数見られる。

このうち、シキミ、コアジサイ、コウヤボウキは、暖地性の植物で、分布的にも主に関東地方以西に生育する種で、上層木と相まって、植生上、暖帯林の特徴を有している。

また、上層木の稚樹が多数見られることから、これらの優占種が自然に更新されうることを示しており、森林の極相状態に近い特徴を持っている。

さらに、斜面下部は、スギ、ヒノキ林となっており、亜高木層にアカメガシワ、ケヤキ、イヌガヤ、サンショウ、シラカシ、低木層にアオキ、キヅタ、コゴメウツギ、ヒサカキ、草本層にヤブミョウガ、ホウチャクソウ、ベニシダ、イノコズチ、ミズヒキ、キバナアキギリ等が生育している。特に、ヤブミョウガは、本県において北限と思われる多年草である。

イ 野生動物

暖帯林の特徴を持つ常緑樹林のもとに、モンキアゲハ、オスジアゲハ、キアゲハ、カラスマゲハ、キチョウ、ゴマダラチョウ、ダイミョウセセリ等のチョウ類、オニヤンマ、マユタテアカネ、オオシオカラトンボ、アブラゼミ、ツクツクボウシ等昆虫類の種類も多く豊富に生息している。

特に、モンキアゲハ、オスジアゲハは南方系の大型チョウで、県北において希少性を有する種であり、常緑樹林の存在と密接な関係を持っている。

さらに、人家近くにはコジュケイ、ヒヨドリ、カケス、キジバト、モズ、ムクドリ、シジュウカラ、キセキレイ、セグロセキレイ等も数多く生息している。

(3) 自然環境の保全に関する基本的な事項

本地域は、スダジイ、アカガシ等の常緑樹林で、林内に暖地性の植物であるシキミ、コアジサイ、コウヤボウキ、ベニシダ等が生育していることから、植生上、暖帯林の特徴を有しており、県北地方において希少性がある。

また、常緑樹の実生、稚樹が林内に数多く存在し、森林の極相状態に近い群落構成を示しており、自然に更新されうる安定した状態を学術的に考察するうえで貴重である。

さらに、希少性を有する南方系のモンキアゲハ、オスジアゲハのほかに、多種の昆虫類、鳥類が豊富に生息している等、良好な自然環境を形成しており、これらの動植物を維持するため、自然環境の保全を図る。このため、保全に必要な規制は条例の定めにより行う。

(4) 保全施設に関する方針

巡視歩道、標識、廃棄物処理施設、植生復元施設、病害虫防除施設、給餌施設、養殖施設等を必要に応じて設ける。

3 地区の指定に関する事項

本地域の区域は次のとおりとする。

単位：ヘクタール

名 称	位 置 及 び 区 域	面 積	土 地 の 所 有 别 面 積	摘 要
下 相 田 緑 地 環 境 保 全 地 域	北茨城市華川町大字下相田 の一部 (別図のとおり)	2.60	公 有 地 0.01 民 有 地 2.59	

総 括 表

単位：ヘクタール

区	分	内 許			計
		国 有 地	公 有 地	民 有 地	
土 地 所 有 别	面 積	0	0.01	2.59	2.60

(面積は図上測定による概算値)

下相田緑地環境保全地域位置図

$$S = \frac{1}{50000}$$



